

鳥飼まちづくりグランドデザイン説明会 議事録

日時：令和4年8月21日（日）

10:00 ～ 11:40

場所：摂津市立 新鳥飼公民館

【出席者】

■住民：66名

■運営関係者：

所 属		役 職	氏 名
摂津市	市長公室	室長	平井 貴志
	〃 政策推進課	主幹	衣川 智久
	〃 政策推進課	副主査	近重 佑太朗
	総務部	理事	辰巳 裕志
	〃	参事	永田 享
	〃 防災危機管理課	課長	竹下 博和
	生活環境部	次長	丹羽 和人
	建設部	参事	寺田 満夫
	次世代育成部こども教育課	課長	浅田 明典
株式会社 オオバ	まちづくり計画部計画設計課		井上 敬雄
	〃		伊勢 聡史

【議事次第】（司会：近重副主査）

1. 開会

2. 出席者紹介

3. 資料説明 （衣川主幹）

- ・ 前回（7月24日）説明会の振り返り （スライド資料）
- ・ 鳥飼まちづくりグランドデザインにおける居住性向上エリアA周辺の将来予想 （スライド資料）
- ・ 進行中の事業：鳥飼地区河川防災ステーションについて （スライド資料）
- ・ 前回説明会における質問への回答 （配布資料）
- ・ 進行中の事業：とりかいこども園について （スライド資料）
- ・ 鳥飼まちづくりグランドデザインの経緯とエリア別構想の概要 （前回スライド資料）

4. 質疑応答 （応答：衣川主幹）

5. 閉会

【配布資料】

- ・ 鳥飼まちづくりグランドデザイン説明会（令和4年8月21日開催） スライド資料
- ・ 都市安全確保拠点施設整備計画策定に向けた説明会（令和4年7月24日開催）における質問への回答
- ・ 鳥飼まちづくりグランドデザイン

【質疑応答議事録】※質疑応答の区切りを、奇数回・偶数回で色分け。

1	住民	<ul style="list-style-type: none"> 今日の説明は過去の説明会を聞いた方にはわかるが、前回の質問への回答から説明しても初めて来た方にはわからない。また、鳥飼まちづくりグランドデザイン（以下、グランドデザイン）の居住性向上エリアA（以下、エリアA）のみを説明していたが、他のエリアに住んでいる方も出席している。エリアA以外のエリアが、それぞれどういったまちづくりを行うイメージであるのか、詳細でなくてもよいので説明してほしい。 グランドデザインについて今日初めて聞く方もいると思うので、どのように進めてきたのか、今後どうなるかを丁寧に説明してもらいたい。今日はこれまでの説明会に比べて出席者が多いので、丁寧に情報の共有を行って、そのうえで意見を求めてもらいたい。
	衣川主幹	<p>（意見を踏まえ、前回説明会（7月24日開催）のスライド資料を用いてグランドデザイン策定の経緯と各エリアの説明及び前回説明会における質問への回答の説明を行った。また、グランドデザインを知らない人はいるかとの問いかけに対して3名の挙手があった。）</p> <ul style="list-style-type: none"> グランドデザインで示した図はあくまでもイメージであり、これができる訳ではない。住民の意見をもらいながら、この地域の将来をどうしていきたいかを考え、市でできることや住民と協力してできることを検討していきたい グランドデザインのイメージ図は叩き台として、様々な意見をもらいたい。全てのエリアについて同時に進めることは難しいため、エリアAで進行中の鳥飼地区河川防災ステーション（以下、防災ステーション）・摂津市立とりかいこども園（以下、こども園）の事業に合わせ、エリアAについての意見を聞きたい。
2	住民	<ul style="list-style-type: none"> スライド資料 p. 10 では生活道路の拡幅と記載されているが、防災ステーションが完成する令和11年までに道路拡幅はできるのか。生活道路の拡幅によって円滑な避難を促進すると記載されており、何かあれば車で防災ステーションへ避難できるということだが、生活道路が拡幅されなければスムーズに避難できないという問題が生じると思う。 道路の拡幅についてはどういった手法で行うのか。用地買収によって行うのか、新築するときの接道からの中心後退（狭あい道路の拡幅整備等）によって行うのか。中心後退に頼っているのは、防災ステーション完成に間に合わない。整備するための財源がないのであれば、再開発事業を用いるなど、「10年後までにこういう手法を用いて拡幅できます」と具体的に示してほしい。 防災ステーションが建設された際、既存の堤防下の車道はどうなるのか。トンネルになるのか。堤防下側の道路拡幅等はグランドデザインの事業に含まれているのか。 グランドデザインは夢物語であり、現実にはどうなるかわからないという認識でいいか。夢を議論していても意味がなく、現実としてどうしていくのかを考えないと意味がないのではないか。 地元説明会が事業を進めていくためのアリバイ作りに見える。

	衣川主幹	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路の拡幅は防災ステーション完成までに実現するものではなく、20年、30年後に実現できるかもしれない街の姿の一例として挙げている。まずは夢のような将来の鳥飼地域のイメージを住民の意見から固めていき、その後はどうやって実現していくのか具体的に考えていきたい。防災ステーションが機能する水害は千年に1回程度を想定しており、平常時の地域の姿についての意見も聞きたい。 道路拡幅等、具体的な整備方法についてはまだ検討していない。 堤防下の道路について、今年4月に行った防災ステーションの説明会における国の設計ではトンネルによる機能維持を示している。しかし、まだ決定ではないため、住民の意見を聞き、反映したい。 グランドデザインの大半は事業化されたものではなく、将来予想を実現するにあたっての課題の方向性を示したもの。今回、グランドデザインのうちの高台化の一部として、防災ステーション・こども園の事業が進んでいく。今後、鳥飼地域の住民が思い描く将来の街を考えた時に、どういったことを事業として進めていくかを検討していくため、まずは皆さんがどういう街にしていきたいかという考えを聞きたい。 地元説明会が事業を進めていく上でのアリバイ作りと見られてしまうのは市としては辛い。まちづくりは市と住民とで協力して行っていかなければならない。まちづくりを進めていく際に市の力は必要になってくると思うが、それより先に住民の皆さんが何を求めているのかを聞きたい。市が進めるまちづくりが、住民の求める形でないという齟齬が生まれないように、まずは「夢」でいいので、住民のいろいろな意見がほしい。
3	住民	<ul style="list-style-type: none"> 今回の説明会では、鳥飼地域に属する40自治会から各自治会2名以上が参加するように働きかけ、このように参加人数を集めることができた。 グランドデザイン策定の際には、40自治会から代表2名が参加し、地域の意見として防災問題、交通問題、教育問題の3点について要望を出した。 防災問題として、防災ステーションは計画通り進めば令和11年度には完成するが、まずはそこに至るアクセス道路の整備が必要なのではないか。大阪中央環状線、八尾茨木線、茨木寝屋川線といった南北に抜ける幹線道路までの道路を整備する必要があると思う。そのために堤防を有効利用する方法として、かつて堤防天端の道路がバス通りであったことも踏まえ、道路を拡幅し車が通れるようにすることや堤防中段の自転車道を活用するなどが考えられる。 防災ステーションへの避難に必要なアクセス道路の整備を具体的にどう進めていくのか。市ができるとは思っていない。国の国庫事業として、防災ステーションの建設に先行して、アクセス道路の整備を進めてもらいたい。このことを強調して伝えておく。
	衣川主幹	<ul style="list-style-type: none"> ご意見として受け止め、検討する。
4	住民	<ul style="list-style-type: none"> ビジョンと構想の実現が20年後ということだが、20年後には生産人口が現在の60%となり年少人口も半減する想定であり、鳥飼地域がダメになってしまってい

4	住民	<p>る。構想と現実とを並行して考えて進めていく必要があると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力あるまちづくりを、あまりお金をかけずに国土交通省の力を借りながら行うとするならば、淀川河川公園を市民の集いの場として活かし、単発的ではなく継続的に活用していくというのはどうか。例えば、自然環境を活かして鳥飼ワンドを安全性を確保したうえで魚釣りができるように活用するだとか、トライアスロンの場所として活かせるようなレジャー施設にするだとか、サイクリングロードに関しては淀川沿川まちづくりプラットフォームが進める「止まり木事業（飲食店や魅力拠点等にサイクルラックを設置する取組み）」など、淀川沿川まちづくりと連携していくことが考えられる。 また、広報活動がものすごく必要であると感じている。住んでいる人へ、構想実現への進め方、行われるイベント情報、防災ステーションの完成予想などを継続して広報によって伝えることで、「自分たちの住んでいる街はこんな風に良くなる」ということを強く示していくことが必要なのではないか。30年、40年後の構想も大事だが、それよりも前に、並行してできることをやってほしい。
	衣川主幹	<ul style="list-style-type: none"> 先のことばかり語っていても、という点はその通りである。今すぐに取り組めることは何があるのかというと、今回説明した防災ステーションとこども園がまさに始まっている事業である。防災ステーションが完成すると上部広場と河川敷につながる道路ができるが、それらをどのように活用するのが重要になってくる。今、提案してもらった釣りの場所としてやサイクリングロードとして等の活用のように、様々な活用の方法についての意見を住民の皆さんから出してもらいたいと思っている。
5	住民	<ul style="list-style-type: none"> 確認になるが、このランドデザインはこの地域で取り組んでいきたい構想であり、具体的に道路をどう整備するのか等の市の方針や考え方は決まっていないという認識で良いか。
	衣川主幹	<ul style="list-style-type: none"> 考え方のベースはランドデザインになるが、これが今後進めていくと確定したものではない。
6	住民	<ul style="list-style-type: none"> ランドデザインは令和2年度から進めており、これまでの2年間で地元懇談会や策定委員会、地元説明会を何度も行っている。私は策定委員会の中でいろんな意見をたくさん出したが、それらの意見が今日の説明では十分に反映されていない。これから皆さんの意見を聞くというがその前に、これまでにどういう意見があってどう反映したのか例示してもらえれば、これまで私たちが協力してきた甲斐があったと感じられるし、これからも協力しようと思える。 防災ステーション事業は国と市が共同で進めていくと聞いていたが、防災ステーションについて質問をすると、「国からはこう聞いています」という回答しかもらえず、防災ステーションの整備は国が主導権を持っているという。鳥飼地域のような街中にできる防災ステーションは、他の事例にあまり見られないため、国の規格としての防災ステーションの在り方と、鳥飼の街に作る防災ステーションの在り方は違って当然だと思う。そのすり合わせを、国と市の共同事業としてお互いにとって有益になるように検討して行ってほしい。今日の説明を聞く限り、市が国へ意見を言う姿勢が見られないと感じた。

6	住民	<ul style="list-style-type: none"> 今日の説明では防災ステーション上も河川敷も人でにぎわっている絵であったが、4月の淀川河川事務所の説明では防災ステーション上は資材で多くの面積がとられることが示されており、人が出入りできない部分が多くなっていた。にぎわいのある有効な防災ステーションの上面利用を考えるならば、市から国へかなり強く要望を出さなければならないと思うが、国の事業だからということで議論させてもらえなかったという印象である。住民にとってどんな防災ステーションが必要であるべきかという一点については、真剣にかつ国と対等に取り組んでほしい。 完成した防災ステーションが、住民の利用が少なく廃墟のようになってしまえば、地価は下がり人が減り、ということになってしまう。防災ステーションを何のために作るのかというのは、地域の人口減少に歯止めをかけることにも寄与するからだと思う。防災ステーションができるのは先でも、構想を市が一丸となって進めていくことを打ち出すことで、地域の期待感を上げ、人口流出を抑えることにもつながると考えられる。 こういった意見は既に出ているはず。そこのところが見えないことが、今日の参加者の皆さんに聞いていただけないのが残念。時間とお金を無駄にしてほしくないことと、住民の意見を真摯に受け止めて実現に向かって一丸となって進めてほしい。
	衣川主幹	<ul style="list-style-type: none"> グランドデザインについては、これからのベースとして用いていく。 防災ステーションについては、市から国のほうへ住民からもらった意見を伝えるということは行っており、こういった活用をしたいという意見があればそれをもとに国と協議を行いたいと思っている。 策定委員会等で過去に住民からもらった意見については、次回までにまとめ、示せるようする。
7	住民	<ul style="list-style-type: none"> 居住性向上エリアCの住民なのでそのエリアについての意見を言うが、新在家1丁目の集会所について、新在家にある堤防を利用して高台まちづくりを行ってほしい。 淀川堤防上道路について、大阪中央環状線から仁和寺大橋線までを車で通れるようにしたらどうか。高槻大阪線の混雑緩和、非常時の避難路などに役立つ。 グランドデザインのパブリックコメントとして、新幹線鳥飼車両基地の近くに新大阪駅から直行の駅をつくる等の提案を提出した。それについても書面回答をお願いしたい。
	衣川主幹	<ul style="list-style-type: none"> ご意見として受け止め、検討する。 パブリックコメントの回答は市HP上に掲載している。
8	住民	<ul style="list-style-type: none"> JR線西北部の都市開発や阪急線の高架建設、味舌体育館の建設等、安威川以北への資金投下は現在、積極的に行われている。道路拡幅等を実際に行う上では膨大なお金がかかるが、市はそれを覚悟のうえで進めようとしているのか。住民の意見をどう反映させるのか。お金のことを考えずには進められない。鳥飼地域への資金投下の手法について、国や府からの補助金を使うのか

8	住民	等いろいろな方法を踏まえ、もう少し明確に示してほしい。そうでなければ現実性がない。
	衣川主幹	<ul style="list-style-type: none"> 市の財政面から考えると、一度に複数の事業を進めるということは難しいこともある。すでに始まっている防災ステーション事業については、上部の水防センターの整備は市が行うこととなっており、施設内にどういった機能を入れるのかは皆さんの意見を反映していきたいと思っている。その際に発生する費用については、一部国の補助があるが、市が負担して行うものとなっており、要望のあった全ての機能を入れるには費用の問題が発生するため、どこまでの機能を入れるのかといった落としどころも今後、市と住民とで議論していきたい。
9	住民	<ul style="list-style-type: none"> わいわいガヤガヤ祭を、市の祭りとして盛り上げてほしい。その一環として堤防整備の際に、桜堤をつくってほしい。今のうちに苗木を植えることで、防災ステーションが完成するときに桜が咲く下で迎えられるようにしてほしい。
	衣川主幹	<ul style="list-style-type: none"> ご意見として受け止め、検討する。
10	住民	<ul style="list-style-type: none"> 9月11日の説明会はこういった説明になるのか。グランドデザイン策定までに出た意見をまとめた説明はあるのか。 防災ステーションとこども園の話をメインとするのであれば、そういう風に示してもらいたい。グランドデザインとまとめて話をするのであれば、その内容や経緯もまとめた話をしてもらわないと困る。 防災ステーションの話なのだとしたら、普段はほとんど使わないから防災公園にするほうがいいだとか、そういった意見を出せるが、グランドデザインと併せていろんな話をするのであれば、この時間とこの人数では絶対にまとまらない。
	衣川主幹	<ul style="list-style-type: none"> 次回9月11日の説明では、グランドデザイン策定までに出た意見をまとめ、その内容も加えた説明会とする。

以上